

2011年

---

ワークライフバランスに関する調査

---

日本女性外科医会

2011年9月 第1版

2012年1月第2版

## 目次

はじめに.....	2
調査の目的.....	3
対象 .....	3
調査方法 .....	3
質問項目 .....	4
結果 .....	7
まとめ .....	20
終わりに .....	21

## はじめに

近年、皆様の努力と働きかけにより施設および制度の面で徐々に女性医師の働く環境が整いつつあり、女性外科医に対する期待や活躍する機会もますます増えております。

しかし、仕事・個人生活の面で、女性医師には様々な選択をされた、また現在選択に悩んでいらっしゃる方々がおいでのことと思います。責任ある外科医の仕事と、個人・社会生活がどのようにバランスをとれたものにしていったらよいか、どのようにすれば私たち女性医師がやりがいのある仕事を続けられるのか、どのような生き方考え方があるのか、幅広く検証する必要があると考えております。

そこでこの度、日本女性外科医会とも協力して、正会員の皆様を対象にアンケート調査をお願いしました。本アンケートを基に検討を重ね、現状を改善していけることを願っております。

平成 23 年 9 月

日本女性外科医会 世話人

東京慈恵会医科大学 外科学講座

川瀬和美

## 調査の目的

我が国における女性外科医のワークライフバランスに関する現状と意識を把握する。

## 対象

2011年2月時点で日本女性外科医会に所属する正会員全員

## 調査方法

インターネット経由で日本女性外科医会正会員あてにメールでアンケート調査を依頼。アンケートの趣旨に同意した時点で添付のアンケートに記入をし、アンケート集計会社に返信するという形をとった。

個人情報の保護に関しては、アンケート依頼の時点で明記され、集計解析は完全に匿名で行われ、個人の特定は不可能である。また、アンケート集計会社とは文面で個人情報の保護に関し漏洩しないこと、情報の処理は暗号化して行うこと、本研究以外に個人情報を使用しないことを確認している。

## 調査期間

2011年2月4日—3月3日

## 情報収集・解析

依頼会社            メディカルデータマネジメント(東京)

川瀬和美(解析のみ)

## 質問項目

1. 貴方の年齢はおいくつですか  
29以下      30-34 35-39 40-44 45-49 50-54 55-59 60-
2. 専門分野は何ですか(主として携わるもの1つ)  
上部消化管 下部消化管 肝胆膵 呼吸器 心臓 血管 小児 乳腺内分泌 救急 一般 研究 その他( )
3. 職場でのポジションをお答えください  
教授 准教授 講師 助教 院長 診療部長 診療医 長  
その他( )
4. 日常の勤務体制をお答えください  
常勤 非常勤 その他( )
5. 通常1週間の合計勤務時間は何時間ぐらいですか  
20時間未満 20時間以上 40時間未満 40時間以上 60時間未満 60時間以上 80時間未満 80時間以上
6. あなたは結婚していますか。  
結婚している 結婚していないがパートナーと暮らしている 離別 死別 未婚
7. あなたに、子供はいますか。  
いる いない
8. 7でいると回答した方のみ子供の数は何人ですか
9. 7でいると回答した方のみ子供の年齢は何歳ですか(上から)
10. あなたの生活の中で、優先したいことを選んでください。まず、最も優先したいことは何ですか  
「仕事」 「家庭生活」 自分の趣味・交際 地域活動 その他( )
11. あなたの生活の中で、2番目に優先したいことを何ですか  
「仕事」 「家庭生活」 自分の趣味・交際 地域活動 その他( )
12. それでは、あなたが実際に最も優先していることは何ですか。  
「仕事」 「家庭生活」 自分の趣味・交際 地域活動 その他( )
13. あなたは、家庭生活のための時間は十分取れていると思いますか。この中から1つお答えください。  
十分取れている まあ取れている どちらともいえない あまり取れていない  
全く取れていない
14. あなたは、地域・社会活動に参加する時間は十分取れていると思いますか。この中から1つお答えください。  
十分取れている まあ取れている どちらともいえない あまり取れていない  
全く取れていない
15. あなたは、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間は十分取れていると思いますか。この中か

ら1つお答えください。

十分取れている      まあ取れている      どちらともいえない      あまり取れていない  
全く取れていない

16. あなたは、休養のための時間は十分取れていると思いますか。この中から1つお答えください。

十分取れている      まあ取れている      どちらともいえない      あまり取れていない  
全く取れていない

17. あなたは、今後、男女ともに仕事を持ったうえで家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参画していくために有効な具体策は何だと思えますか。この中からいくつでもあげてください。

- (ア) 男女の役割分担についての社会通念を変えるための教育をすすめる
- (イ) 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる体制や機会を作ること
- (ウ) 労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させること(労働条件の緩和)
- (エ) フレックスタイムなど労働形態を多様化させる
- (オ) 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと
- (カ) 女性に対し、家庭だけでなく仕事や社会的活動への参画の必要性の啓発・教育
- (キ) 家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること
- (ク) 仕事中的子育てや介護に対する支援制度を充実させること
- (ケ) 時間的、体力的に余裕がある人に対し社会活動を呼び掛ける制度作り
- (コ) その他( )

18. あなたは日頃仕事について満足していますか(ひとつだけ)

とても満足している      どちらかといえば満足している      どちらともいえない      どちらかとい  
えば満足していない      満足していない

19. あなたは日頃仕事以外の生活について満足していますか(ひとつだけ)

とても満足している      どちらかといえば満足している      どちらともいえない      どちらかとい  
えば満足していない      満足していない

20. あなたは、家庭生活において男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(オ)の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。

- (ア) 男性のほうが非常に優遇されている
- (イ) どちらかという男性のほうが優遇されている
- (ウ) 平等
- (エ) どちらかという女性のほうが優遇されている
- (オ) 女性のほうが非常に優遇されている
- (カ) わからない

21. それでは、職場ではどうでしょうか

(ア) 男性のほうが非常に優遇されている

- (イ) どちらかというと男性のほうが優遇されている  
(ウ) 平等  
(エ) どちらかというと女性のほうが優遇されている  
(オ) 女性のほうが非常に優遇されている  
(カ) わからない
22. あなたは、家事や育児分担は、配偶者との間でどのような割合になることが理想だと思いますか。現状とかかわりなくお答えください。また、配偶者がいない方は、いる場合を想定してお答えください。(自分自身と配偶者で合計が10になるように数字を選んでください)
23. 女性外科医として産休期間がどのくらいあればいいか、あなたはどうかお考えですか。まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つお答えください。  
産後数日で復帰      産後 8 週(法律での産休)まで      3カ月ぐらいまで育休を取得したい  
6カ月ぐらいまで育休を取得したい      1年ぐらいまで育休を取得したい      子供が大きくなる数年間は子育てに専念したい      その他
24. 女性外科医として子育て中に仕事をするということについて、あなたはどうかお考えですか。まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つお答えください。  
フルに働く      勤務形態を変更して働く(短時間勤務・当直免除など)      パートタイム・アルバイトとして働く  
子育て中は育児に専念      その他
25. 今小学校低学年以下の子育て中の方に質問します。現在の勤務はどのような形で行っていますか  
フルに働いている      勤務形態を変更して働いている(短時間勤務・当直免除など)  
パートタイム・アルバイトとして働いている      育児に専念している      その他
26. 自分が 10 年後現在よりも高い職責にあたり、難しい仕事を行っていると思いますか  
はい      いいえ      わからない
27. 24 ではいと回答した方のみ それはなぜですか  
ロールモデルやメンターがいる      職場において今後のキャリアパスが示されている  
明確なキャリアプランを持っている      職場の同僚の間でキャリアについて相談しやすい環境にある  
今後自分の能力開発を行っていこうと考えている      その他
28. 24 でいいえと回答した方のみ それはなぜですか  
ロールモデルやメンターがいない      職場において今後のキャリアパスが不明確だから  
明確な達成目標がない      職場の同僚の間でキャリアについて相談しやすい環境にな  
い      家事・育児・介護やストレスなどでやめるかもしれないから      現状で満足しているから  
その他

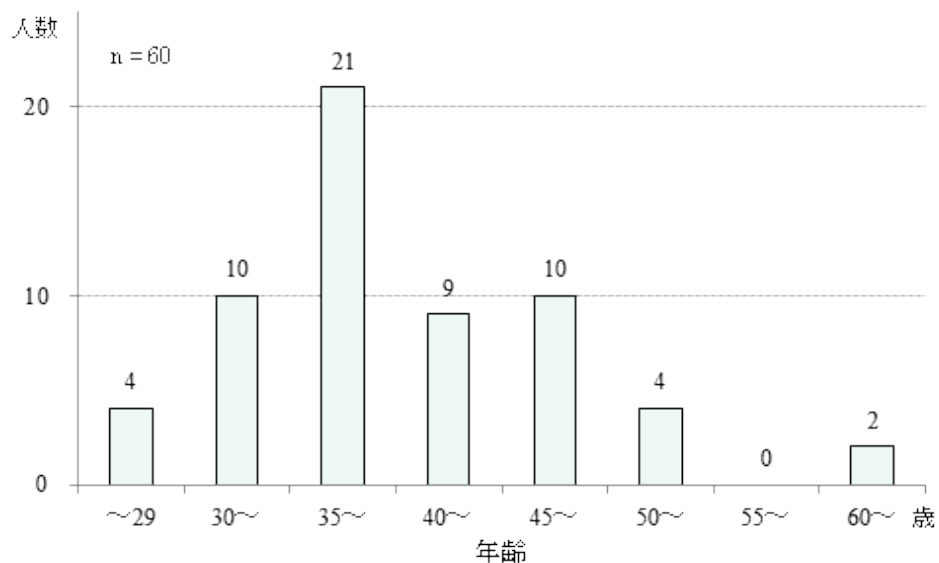
## 結果

### 1. 回答者数・回答率

送付した110名中、61名が回答、回答率55.5%であった。

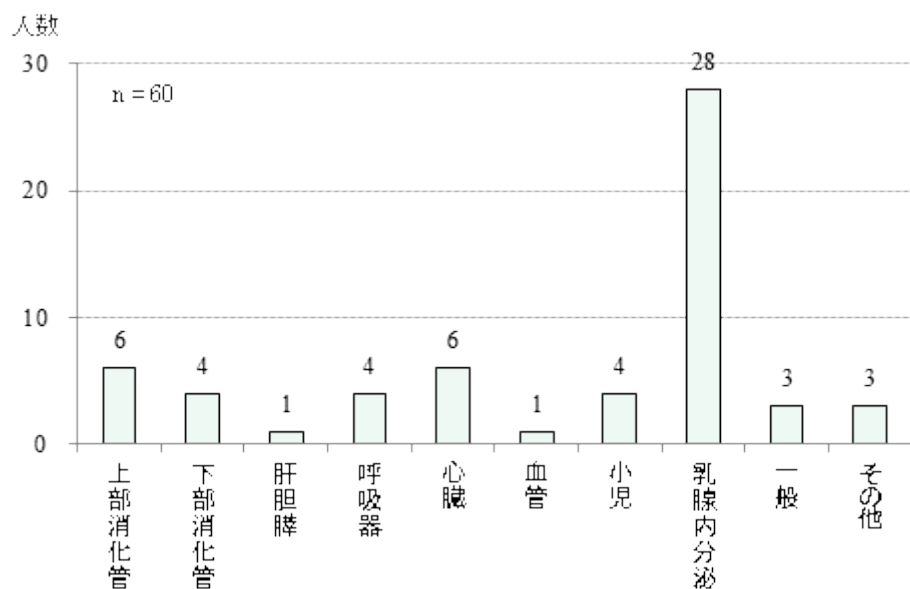
うち1名の回答が不適切(空欄)であった。以下、60名の内訳をまとめた。

### 2. 回答者の年齢



40歳未満が58.3%、30歳代が51.7%と過半数を占めた。

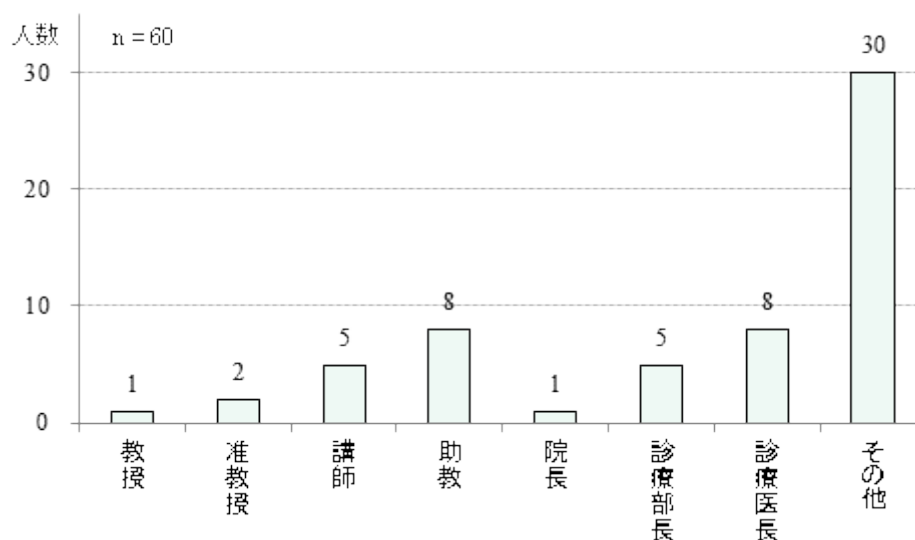
### 3. 回答者の専門分野



その他 形成外科 1 / 消化器外科 1 / 往診専門(内科・小外科) 1  
乳腺内分泌外科が47.5%と約半数を占めた。

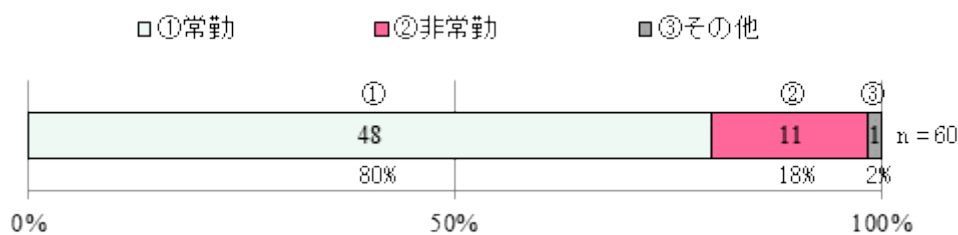


#### 4. 回答者の職場のポジション

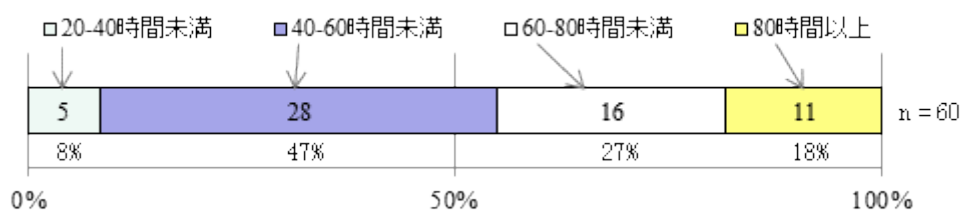


副医長 2 / 診療副部長 1 / 行政の医療職、病院に併任 1 / 医員 6 /  
 医員(大学院生) 1 / 肩書きなし 1 / 助手 1 / 嘱託医師 1 / シニアレジデント 1 /  
 レジデント 1 / 専攻医 1 / 大学院生 1

#### 5. 日常の勤務体制

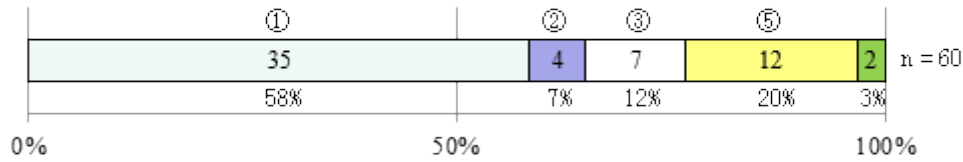


#### 6. 1週間の勤務時間



## 7. 婚姻状況

□①結婚している □②結婚していないがパートナーと暮らしている □③離別 □④未婚 □⑤回答なし

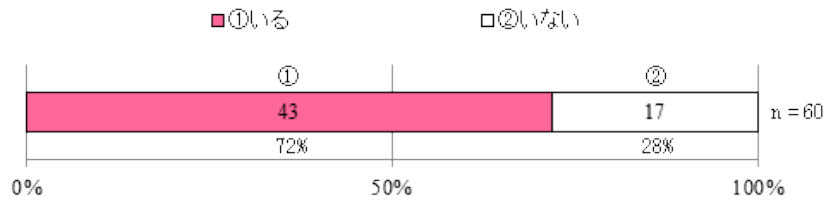


(注)「④死別」の回答なし

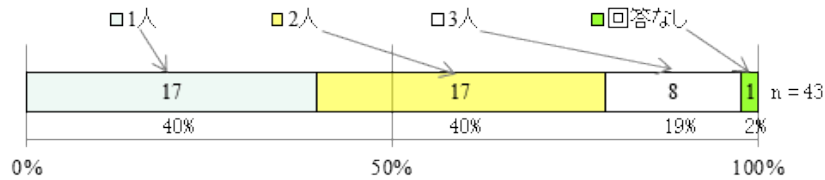
## 8. 子供

70%に子供がおり、数は平均 1.79 人だが、子供を持たない人を含めると全体の女性における子供の数の平均は 1.27 人であった。

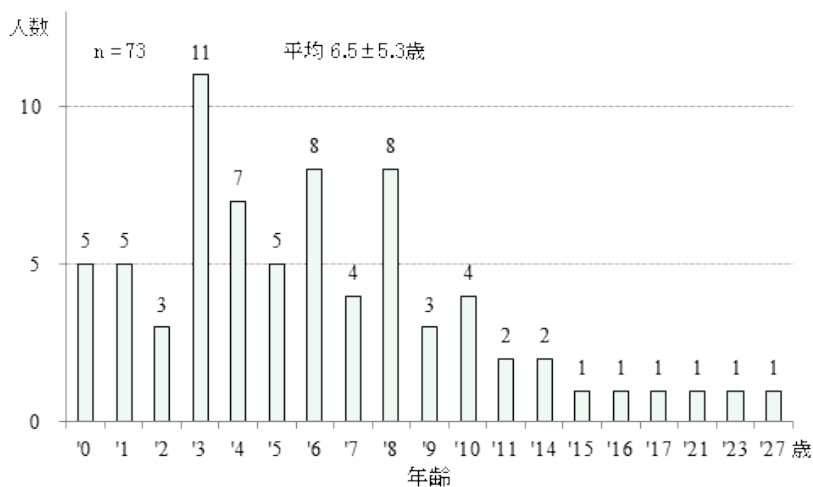
### (ア) 有無



### (イ) 人数

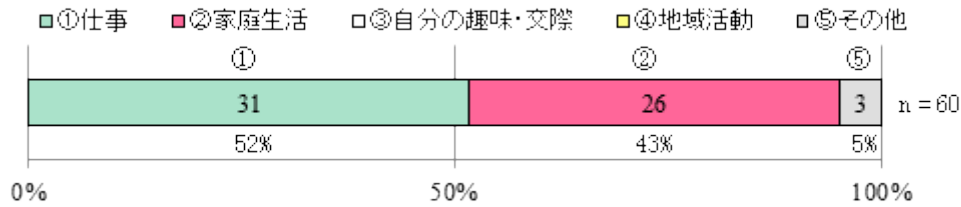


### (ウ) 年齢



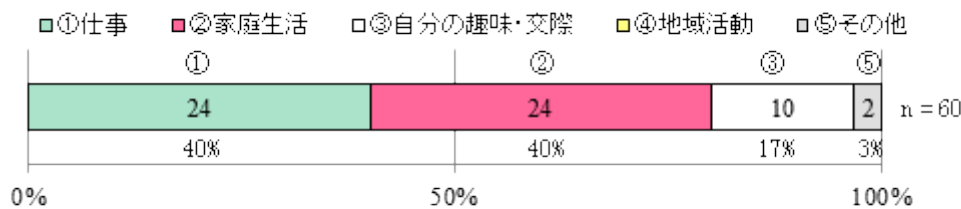
9. 生活の中で最も優先させたいこと

「その他」にある「子供(子育て)」を「②家庭生活」に含める



(注)「③自分の趣味・交際」、「④地域活動」の回答なし

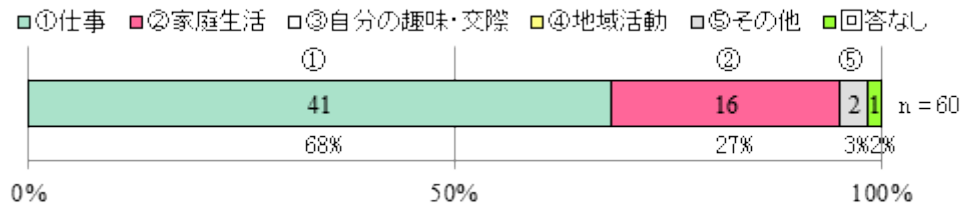
10. 生活の中で2番目に優先させたいこと



(注)「④地域活動」の回答なし

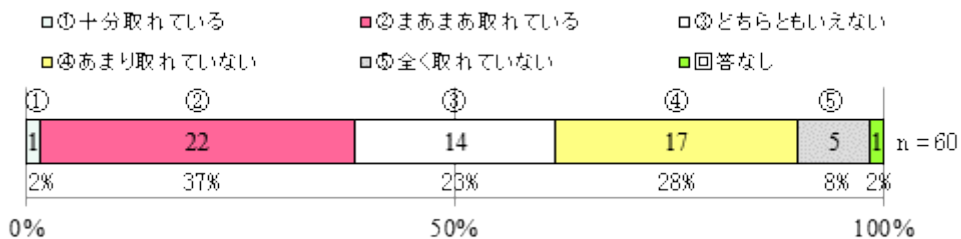
11. 生活の中で実際に最も優先させていること

「その他」にある「子供(子育て)」を「②家庭生活」に含める



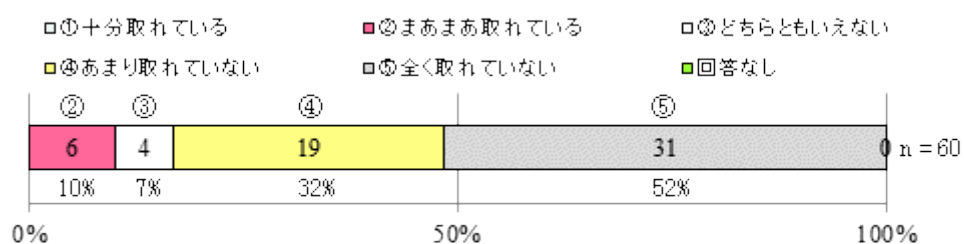
(注)「③自分の趣味・交際」、「④地域活動」の回答なし

12. 家庭生活の時間



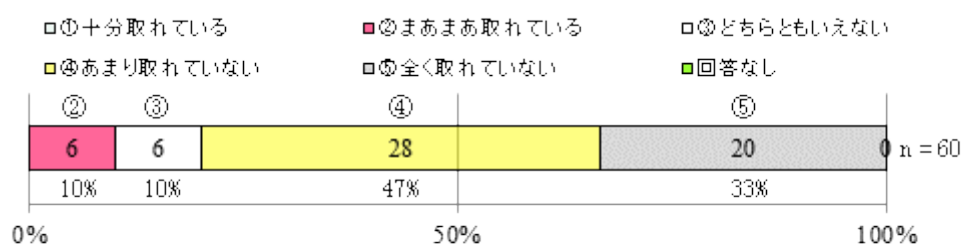
38%が家庭生活に時間を取れていると回答したが、同程度の 36%が取れていないと回答していた。

### 13. 地域・社会活動の時間



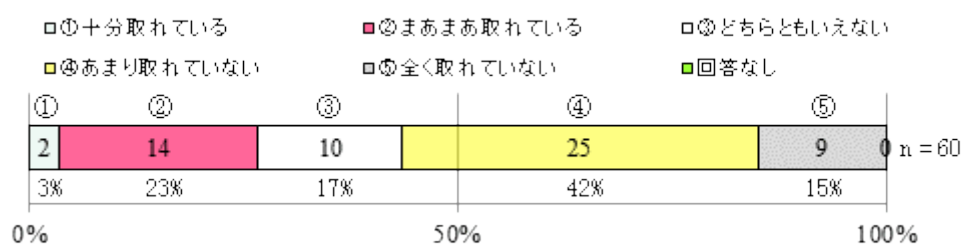
(注)「①十分取れている」の回答なし

### 14. 趣味・娯楽、スポーツの時間

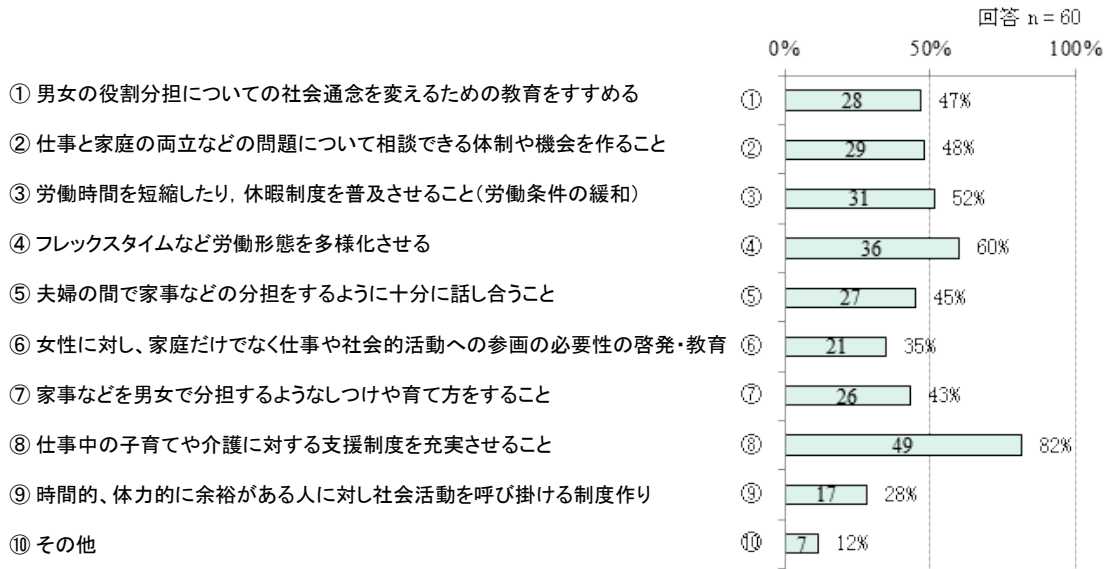


(注)「①十分取れている」の回答なし

### 15. 休養の時間

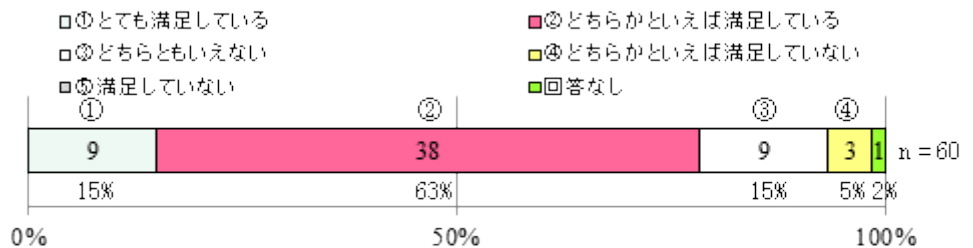


16. 今後、男女ともに仕事を持った上で家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参画していくための有効な具体策



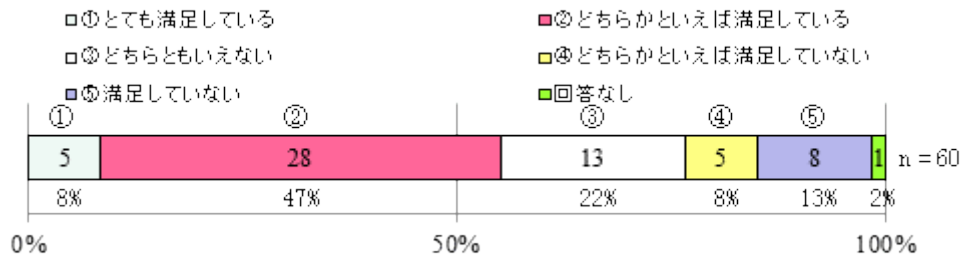
- ★その他
- ・育児が仕事のデメリットとならない職場の意識作り
  - ・個人個人が、現在のpriorityをはっきりさせ、それぞれの専門性を維持しながら生活する
  - ・自分の性格を変えること
  - ・主治医制→チーム

17. 仕事の満足度



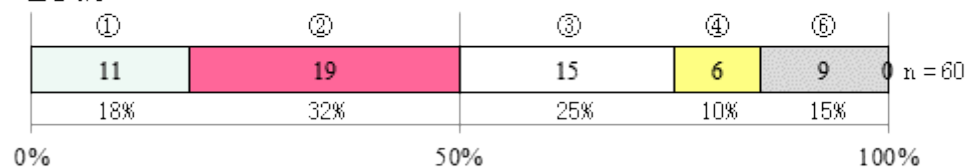
(注)「⑤満足していない」の回答なし

18. 仕事以外の生活の満足度



### 19. 家庭生活における男女の地位の評価

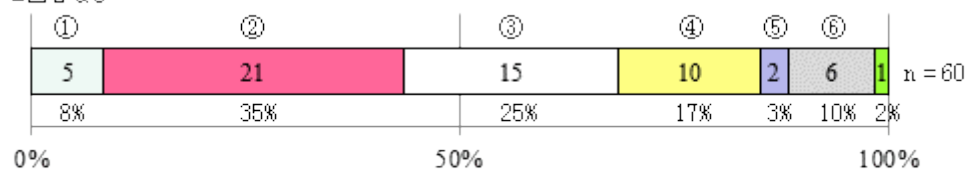
- ① 男性のほうが非常に優遇されている
- ② どちらかというと男性のほうが優遇されている
- ③ 平等
- ④ どちらかというと女性のほうが優遇されている
- ⑤ 女性のほうが非常に優遇されている
- ⑥ わからない
- 回答なし



(注)「⑤女性のほうが非常に優遇されている」の回答なし

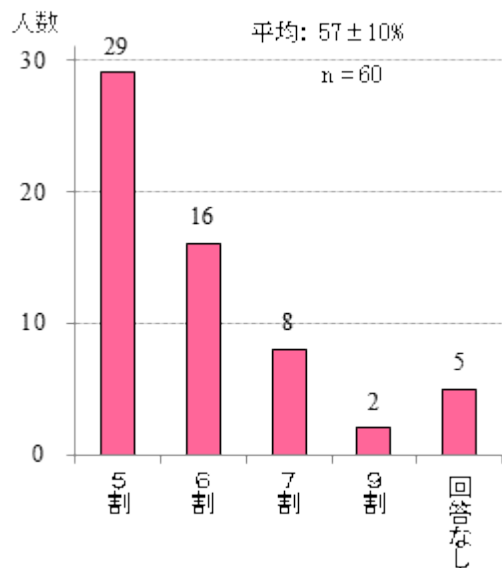
### 20. 職場における男女の地位の評価

- ① 男性のほうが非常に優遇されている
- ② どちらかというと男性のほうが優遇されている
- ③ 平等
- ④ どちらかというと女性のほうが優遇されている
- ⑤ 女性のほうが非常に優遇されている
- ⑥ わからない
- 回答なし

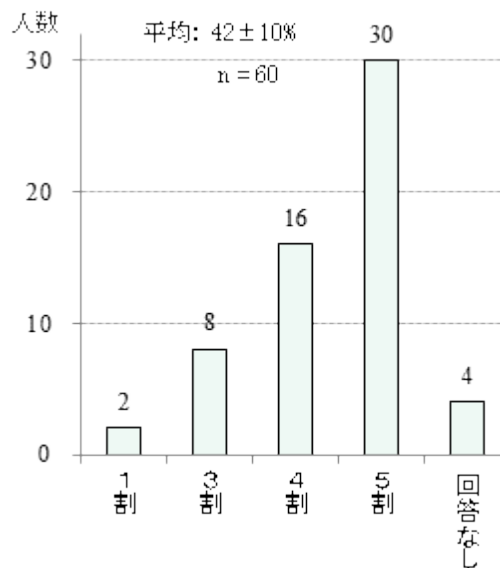


### 21. 家事や育児分担について、自分自身と配偶者との理想的割合

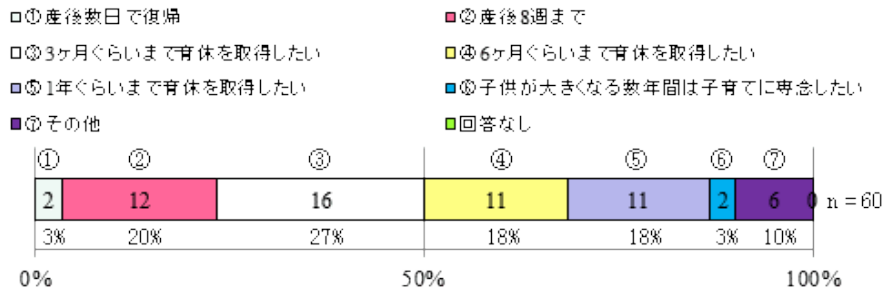
#### ★自分自身



#### ★配偶者



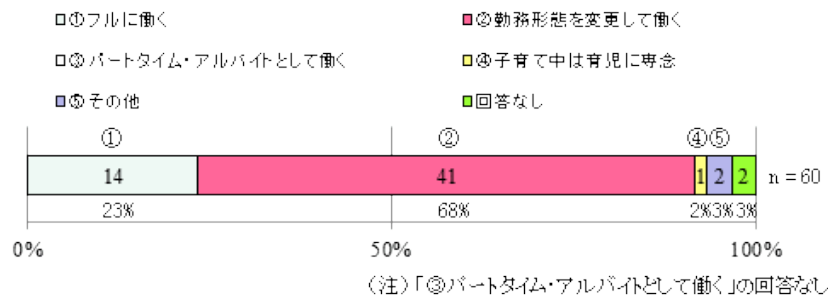
## 22. 産休期間についての希望



### ★その他

- ・ケースバイケース
- ・個人の状況によると思います。
- ・本人の体力と職場、家庭の環境による。
- ・希望者は長くとれる事も可能になればいいと思う。
- ・個人で考え方が違うので一概には言えないと思う。
- ・体調がもどればすぐ復帰できるような環境であればうれしい。
- ・必要に応じて期間を調整できるような制度を導入する。
- ・法律通り8週は必要と思う反面、希望により早期の復帰も良いのではないかと考えますし、長く産休を取るのも悪いことではないと考えます。

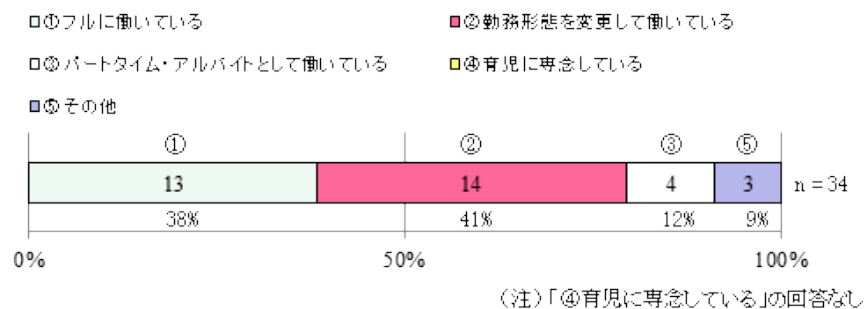
## 23. 子育て中の仕事 理想



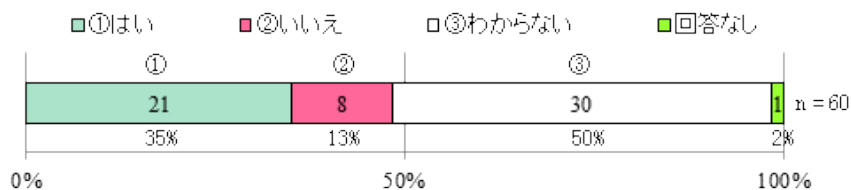
### ★その他

- ・ひとそれぞれだと思います。
- ・人による。

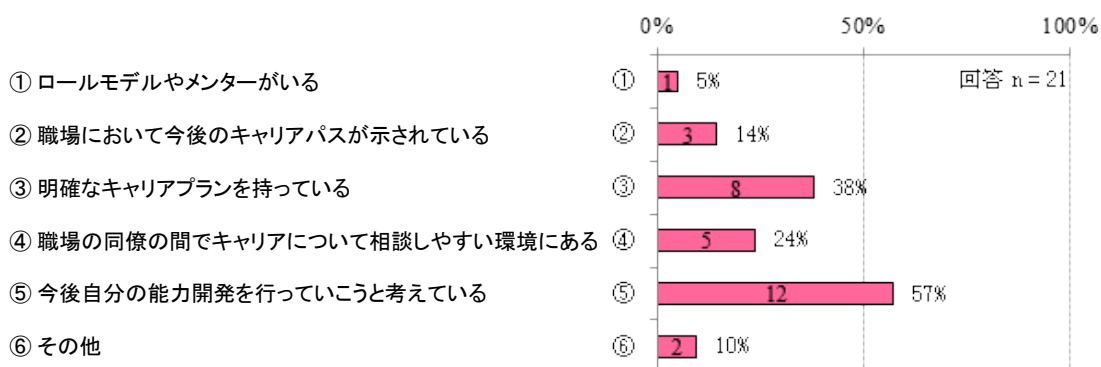
## 24. 子育て中の実際の勤務形態(現在、小学校低学年以下の子育て中の方を対象)



25. 自身の将来展望(10年後、現在より高い職責にあったり、難しい仕事を行っていると思うか。)

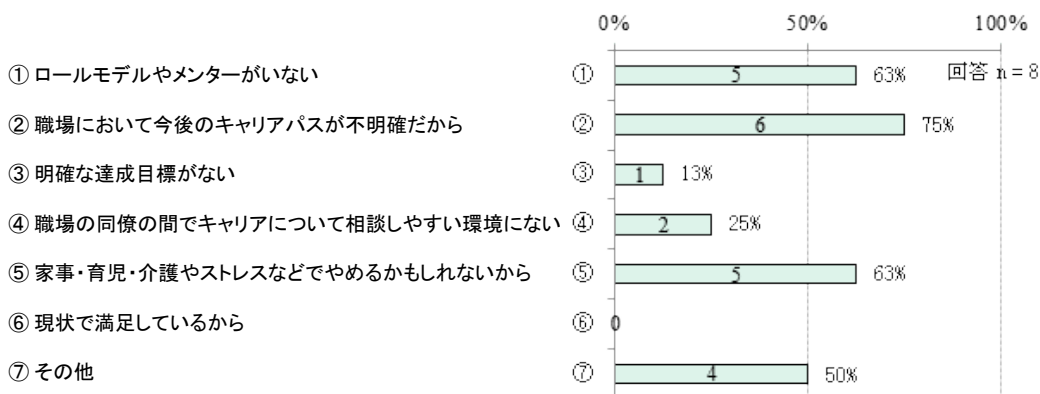


(ア) 「はい」と回答した方について、その理由



- ★その他
- ・一生仕事を続けていく以上、現状に満足してはいけないうため。
  - ・専門性を維持する仕事を選び、学会発表も参加も続けているから

(イ) 「いいえ」と回答した方について、その理由



- ★その他
- ・これまで、他人の尻拭いのために足をひっぱられることが多かったから。
  - ・開業をしている可能性あり
  - ・自分自身の心境の変化も不明確。
  - ・職場、上司の協力理解体勢がないから。
  - ・年齢的に無理

26. 意見



- 女性外科医会の活動が外科医全体の WLB の改善につながることを望みます。
- 病院に24時間保育をつけてほしいです。仕事をフルにしたい女性にとってそれが一番の助けになると思います。
- どんな仕事でもパートナー以外、いろいろな人の援助があって成り立つものです。平気で手助けを求めるように！！と若い人に言いたい。
- 医局の教授にはいろいろな家庭環境や事情があり女性の働き方をパターン化することは難しいといわれました。とにかく女性外科医の数を増やしパターン化できるように私たちも努力しなくてはいけないと思っています。
- 現在 AM2:45 時まで仕事していました。子供は熱で病児保育でした。外科医と子育ての両立は非常に大変です。今から帰って朝ごはん、夕御飯の準備です。
- 5 年前はもう少し改善するかとは思っていたが、結局あまり変化が無く、社会の意識も結果的には何も変わらないままなので、近未来的には女性外科医で家庭を持ち親戚の手助け無く子育てをするのは難しいと思っている。女性外科医を確立するのは本当に地道な作業が必要。
- 子供 2 人をかかえ常勤勤務中です。当直免除されているのでぎりぎり持ちこたえています。子供が小学生になるくらいまでは今の勤務形態を維持できればとおもいながら、特に法令化されているわけでもないので職場の好意に甘える状態。不安定な感じがします。なんらかの指針がしめされると安心して働けるのですが。
- このように今女性外科医の仕事と生活のバランスを考える活動が動き始めてとても有難いです。また、他の先生方の意見や志向がどの方向にあるのかを知ることができるいい機会ではないかと思いました。暗中模索ではあるかと思いますが一人の力では限界があるときこういった集まりのなかでよりよい方向性が見つかっていけばと思います。
- 私自身は、今は仕事が充実しているため、仕事に力を注げるしもっと実力をつけたいと思っているが、実際家庭を持ったら、家庭を優先すると思います。家庭大事にし、外科医としての実力もつけたいが、親の助けを借りられない今の状況では両立は不可能です。人員の増加、就労形態の工夫、同僚の理解を期待しているところです。
- 女性のほうが覚悟がある分、志が高い気がしますが、結婚・出産は自分の意思だけでどうにもならないことです。今までは人数が少なくて特例として処理されていましたが、人数が増えれば体制を整えざるを得なくなると思いますので、外科医全体が減少している今こそ女性外科医が増えるように学生達に働きかけなくてはならないと思います。
- 育児をしながら男性と同じ仕事をしていくのは大変ですが、女医の仕事免除やパートタイムの方向にばかり流れが傾くのはどうかと考えます。男性外科医も耐えていることは沢山あると考えます。女医のライフワークバランスは、男性外科医にとっても、外科医全体としてのワークライフバランスにも大いに影響すると考えます。アンケート集計結果を楽しみにしております。
- 職場における男女平等は、男性と同等にフルに働かなければなされないと従来では認識されているようですが、家事・育児を担当しない者とする者で、ワークライフバランスを区別していくことがもっとも合理的であると考えます。勤務形態が異なっても、その持ち場で責任を果たせ

ば仕事内容に優劣はないように思います。そのためには男性陣を中心とした周囲の認識改革と人員整理が最も重要と思います。

- 当教室でも昨今の女性外科医増加に伴い、特に研修医や後期研修時期の女性外科医に対して気を使いすぎているように見える。女性を強調しすぎることには違和感を感じる時がある。結婚後や育児中の職場環境が改善される効果は期待したいが、外科修練が最も重要な時期の女性外科医に悪影響を与えているような気がする。もうすこし女性外科医が働く環境が成熟すれば男性外科医の過度な気遣いも不要になるかもしれないが...
- 職場の中では意識があがり、働きやすい状況になってきました。しかし小学校のPTAとかはなかなか理解してもらえません。なかなか休みの都合がつきにくい職種だということが理解されず、なぜPTA活動のためのそのくらいの休みが取れないのか？との発想です。もっと女性医師が仕事を継続していくことは大変だということを外にもアピールすべきだと思います。学校の先生は当たり前のように育児休暇をとって復帰します。モデルはそこにあるような気がします。
- 女性外科医に限らず、女性医師の最近のトピックスは、どちらかという、結婚したり育児したりしながら働く女性医師に、焦点が当たっているような気がします。もちろん、そういう方がたのサポートはすごく大事なことだと思います。しかし、男性とまったく同じ条件で働いている女医さん(外科系、内科系限らず)も結構いるのですが、そのことはあまり大きく取り上げられないことが多いように感じます。どちらも助け合い、応援しながら、共存していけるといいな、と思います。
- これまでは、女性医師の職業継続の中では出産・育児の問題が一番大きいと思っていました。しかし、最近では、能力のある女性の多くが、本来の力を発揮する機会を得るまで「耐え」られず、自分の理想とするキャリア・パスから外れていってしまっている現状を実感しています。男性の多くは、意気地も逃げ場もなく、ただ諾々と日々を送っていますが、女性の場合、「その他」が許される部分が、良くも悪くもあるからでしょうか？ 明確な改善策は思いつきませんが、何かできることが無いのか思い悩む日々です。
- 子供がいれば、完全に割り切らない限り仕事をフルにするのは至難の業だと思います。子供も一人目、二人目でも違うし、産休育休も個人での考え方があり、すぐに復帰する事が望ましいとも思いませんし、子供のために仕事をセーブすることも1つの選択だと思います。ただ、女性医師がいざ仕事を始めたいといったときに、スムーズな形で復帰できるシステムと理解が必要だと思います。これが良いという決定的なものはありませんが、ただ1つ思うのは、個人個人の選択を許容できる環境が大事ということでしょうか。
- I. 質問(22)【家事や育児の分担割合】は子供の年齢によりその比重が異なる。例えば乳児期の授乳などは母親にしかできないものであり、その時期は母親の育児比重が高いのは当然である。また母親、父親それぞれにしかできない役割があり、比率で割れるものではない。  
II. 育児中の女性医師の環境のみだけでなく、育児中の家庭環境をサポートするシステムづくりを考える必要がある。  
III. 専業主婦を妻に持つことが多かった時代の上司への意識改革が最も困難であり、多くの

女性医師が苦勞している理由はその点であると思われる。

- 私の世代は、子育てをしながら外科医を続けるロールモデルがない世代です。自分の希望に反して非常勤になりましたが、結果としてよかったと思っています。学校の役員をやったり、保育園時代の働くママ友以外の専業主婦のママ友もでき、女性としての自分の生き方について希望をはっきり自覚するようになりました。社会での役割を再認識し、明確な専門意識を持つ事も出来ています。今後は、子どもの受験勉強の進み具合により 1、2年のうちには常勤に戻り、後輩女性医師をサポートする側になりたいと思います。
- 女性自身の職業人としての意識改革と女性が外科医として生きることへの男性の理解・共感が必要です。生きがいある仕事を持つことも、家庭・子供をもつことも男女問わず当たり前勝ち取るべき価値であることを認識する必要があります。女性が仕事より家庭を重視するあまり、仕事を制限してもよいようなシステムを作ることへの関心が集まっていますが、父親不在の古い日本式の子育てが本当に理想でしょうか？両親働いていても、両親がともに子供に真剣な関心を示す子育てこそが本来であり、そのためには男性医師の働き方への意識変革こそがもっとも必要なことではないかと考えます。
- 妊娠、出産を経て仕事に復帰してみて、子育てしながら仕事することに対しては、自分の中では当たり前になってきています。特別視されるのもどうかと感じました。ただ、上司は前例がなく、かなり復帰当初は制限された勤務でしたが、いまでは、一緒にオペに入り、毎日楽しく仕事をしています。勤務形態については、男性も、育児中のかたは、妻としては早く帰ってほしいと感じます。そういうお互いの理解が普通にある環境であれば、むしろ、子供がいたほうが、毎日が楽しく、充実しているように感じます。私は、大好きな外科で、仕事ができ、育児ノイローゼにもならず、本当によかったと感じました。
- 今は 0 歳児がいるため仕事ももう少し頑張りたいが時期を待とうと考えている時期です。保育園通園のせいもあるのかまだ病気での急な休みなどあり、自分だけの都合で仕事に集中できる環境ではないことを周囲の方にわかって頂いていると思える点は、私の場合ありがたいと思っています。本人の意思以外で無理ができない状況であるという事は当事者(子供を持って育児に参加していない)でないと分からないものかもしれません。これまで育児は奥さまにまかせっきりであった男性外科医の方々にもそのことを浸透させて育児中の環境作りがしやすくなるようにしていきたいと思っています。
- 女性外科医に限らず、社会活動をしている女性は結婚・出産はある程度計画的にしたほうが良い。ただし、その後の子育てや介護には予期せぬ変化が急に起こることもあるので、それに対応できるような環境整備を本人が周囲に働きかけておくことも必要。また、加齢とともに男女とも健康状態に変調を来す可能性が高くなるので、ひとり(=指導的立場にある外科医やポイントゲッター的医師)が欠けても全体(病院の手術件数や収益)に響かないような責任(症例)を分散した体制作りをしておくことは外科チームの場合特に重要。ベテラン外科医の病欠や離職は代理医で補填できないこともあるので、外科医全体の健康管理をしっかりするシステム(検診の義務化、当直明けや出張後の休養など)や能力にみあった報酬も必要。そういう点で

は子育てや介護中の(女性)外科医は、個人病院やクリニックで代理医がない立場よりも、総合病院の外科チームの一員にいるほうが本人も周囲も安心かもしれない。

## まとめ

回答率は 55.5% で、約 6 割が 40 歳未満であった。

未婚者は 20% で、子供がいる人は 72%、子供の数は平均 1.78 人、年齢の平均は 6.5 歳であった。80% が常勤で、55% は週労働時間が 60 時間未満であったが、一方 18% が週 80 時間以上の労働をしていた。理想の生活の最優先項目は過半数 (52%) が仕事と回答し、実際の最優先項目も 68% が仕事を挙げた。

38% が家庭生活に時間を取れていると回答したが、同程度の 36% が取れていないと回答し、地域・社会活動、趣味や娯楽に十分時間をとれているとの回答は見られず、80% 以上が取れていないと回答した。休養に関しても 57% が取れていないと回答した。

43% が仕事において男性が優遇されていると考えているが、同時に 20% は女性が優遇されていると認識し、78% が現在の仕事に満足していた。家庭生活において半数が男性が優遇されると感じており、仕事以外の生活への満足度は 55% と低下し、満足していない (どちらかといえども含める) との回答も 21% に認められた。しかし、理想の家庭生活における男女の役割分担の比率に関しては女性の役割が 57% と多く、家庭における女性の役割を女性自身が重要視している結果となった。

今後、男女ともに仕事を持った上で家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参画していくための有効な具体策として多い順に仕事中的子育てや介護に対する支援制度を充実させる、フレックスタイムなど労働形態を多様化させる、労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる (労働条件の緩和) などが挙げられた。

子育て中の勤務に関しては、個人によるとの意見もあるが、理想の産休期間は産後 3 か月が最多 (27%) で、その他 8 週 (20%)、6 か月、1 年 (ともに 18%) と同程度の希望があった。68% が子育て中に勤務形態を変更することを望み、実際に子育て中の 53% が勤務形態を変更またはパートタイムで働いていた。将来の自身の展望に関しては、50% がわからないと回答し、肯定的な展望の理由においては 57% が今後自身で現在明確なキャリアプランを持っている、または自分の能力開発を考えており、自身による努力が主なものであった。反対に否定的な見解の理由として、職場でのキャリアパスが不明確、ロールモデルやメンターがいない、家事・育児・介護やストレスで辞めるかもしれない、と職場環境が主なものであった。

フリーコメントとしては、自身の経験からの悩みや意見、女性だけの問題とせず、個人におけるワークライフバランスと考えた環境改善の必要性と女性外科医におけるキャリアの問題などの意見が多く認められた。

我が国の女性外科医は我が国の女性外科医は労働意欲も高く仕事も満足しているが、同時に家庭での役割も重要視しているため負担が多く、且つ外科のキャリアに関し相談相手の欠如や自身のキャリアアップの見通しが不透明なことが今後外科医を続ける障害で、改善されるべき課題と考えられる。

終わりに

本アンケートはさらにアメリカ女性外科医会 Association of Women Surgeons (AWS)および香港女性外科医会 Women's Chapter of the College of Surgeons of Hong Kong (HK)においても同様の調査が行われ、国際比較も行われました。この結果現状や意識の違いも明らかになり、興味深い結果が得られております。今後、本アンケートを基に更なる女性外科医の活躍につながることを希望しております。

アンケートにご協力くださった皆様に深謝いたします。

なお、本研究は、文部科学省科学研究補助金 基盤研究(C)課題番号 22510295 の助成を受けて行いました。